

自己評価公表シート

令和7年度 第1回 津山社会福祉事業会 城西保育園

1. 本園の保育目標

子どもが健康で心豊かに成長するため、保護者や地域社会とともに子育てを進めます。 1. 心身ともに健康で丈夫な子どもを育てます。 2. 豊かな生活経験のなかから基本的な生活習慣を身につける子どもを育てます。 3. 安心した気持ちでさまざまな活動を通して共通の目的を見出し、協力して遊びを楽しめる子どもを育てます。 4. 豊かな感性を持ち、自分の思いが表現できる子どもを育てます。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
保育について 保育理念・保育観の理解、保育計画の作成、計画に基づいた保育実践に関して職員間の共通理解を図る。	全体的計画・保健計画に基づき、月指導計画、個人指導計画の作成を行い、保育の実践をしている。計画の中で、子どもの主体的保育を職員が意識している。また、子どもの気づきや発想、気持ちの変化を受け止めながら保育の展開を行っている。会議や連絡会等で職員間の共通理解を図っている。
経営・組織について 自分の職務や役割分担を理解し、職員間で意見交換しながら方向性を決定し、責任を持って仕事に取り組む。	毎月、チーム会議を行い主体的保育についての学びや、日々の保育の中での情報交換を行っている。行事については、今年度見直しを行い子どもたちが楽しんで参加できる内容にするために、各係を中心に計画を立てている。また、経験年数によって差が見られるが、職員全員でフォローできる様にしている。
資質向上について 保育士・栄養士として人間性と専門性の向上のため、自己研鑽に努める。	子どもの生涯の基礎を担う大切な役割であることを認識し、常に向上心を持ち、年間教育研修計画をもとにオンライン研修も併用しながら研修を受けるなど自己研鑽に努めている。研修を受けた職員は会議等で資料提供し、報告やロールプレイを行い職員間で共有している。
その他 異年齢児での活動を通して遊べる環境作り	3歳児以上クラスでは、異年齢児チームを作り年間の計画のもと活動を行うことができている。その中で、相手の話を聞いたり、5歳児が3歳児に合わせて遊ぶ姿も見られるようになってきている。活動内容も子ども達と決めながら進め、子どもが主体的に遊べる環境づくりに努めた。

3. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み内容
各年齢の子どもの発達を捉えた「子どもの主体的な保育」の実施をする。	子どもの主体的な保育を意識しながら、子どもの発見や気づき、発信を見逃さないように保育者の視点も変化しつつある。各年齢の発達課題を組み込みながらも、子ども主体の保育を充実させて行くよう今後も取り組んでいく。
園の現状を把握し、行事等の見直しや子ども一人ひとりに応じた対応ができるように努める	職員全体で、保育園の現状把握を行いながら、その中で行事や係などの見直しを行いながら、子どもたちが楽しめる内容を検討していく。また、配慮を必要とする子どもに園全体で対応できるよう職員間の連携をさらに行っていく。
全職員の共通理解と職務の計画性に努め、資質向上に努める。	「子どもの主体的な保育」への職員間の共通認識を持てるよう、研修や話し合いを引き続き行っていく。また、公開保育等を通して意見を交換しながら、保育を考えることや幅広い知識を持てるよう努める。
地域、専門機関との連携を図る。	地域だよりを年長児と一緒に配布し、直接手渡しを行う中で園に来てもらえるように取り組んでいく。また、はれそら広場やふらっとカフェなど見学をするなど内容を理解できるよう努める。